



協働のまちづくり「牛鬼会議」

■ 牛鬼会議の成り立ち

平成30年7月豪雨災害から5年。この間、多くの市民の皆さんや団体の協力によって、復旧・復興が着実に進められてきました。

その中で、支援活動は多様化し、さまざまな支援ニーズに迅速に対応するため、複数の組織が連携して活動を行う必要が生じました。

「牛鬼会議」は、支援活動を行う団体同士が連携し情報共有を行う場として誕生し、行政や社会福祉協議会、NPO団体などの災害支援に関わる団体や人が参加することで、関係機関およびボランティア団体との連携構築が進み、着実に復興が進められました。

※令和5年5月末時点で延べ78回開催。

■ これからの牛鬼会議

これからの牛鬼会議をどうしていくのか、参加者の皆さんで話し合った結果、平成30年7月豪雨災害時において連携して課題解決に取り組んだ経験から、今後予想される大規模災害に向けて、どう備え対処していくのかを考えることが重要であるとの気づきが生まれました。

今後も牛鬼会議は継続され、この宇和島で暮らす一人ひとりが、防災・減災をはじめとした地域課題を学ぶことを通じて、それらの課題を「ジブンゴト化」できるような場となることを目指していきます。

また、情報共有に限らず、会議の参加者が相談・提案したテーマに沿って、地域課題について考える研修会やワークショップの企画も予定しています。

新しい牛鬼会議には、多くの市民や団体に参加していただき、自分たちが住むまちのためにできることを共に考え・学ぶことができる場となることで、「協働のまちづくり」の推進を図っていきます。

